

## 造血器腫瘍における「真の難治病態」の制御を目指す多角的研究

## ① 共同研究・産学連携への意気込み

教授  
黒田 純也

ポスト・ゲノム時代の今、これまでに創出された知見を、診療現場において迅速・簡便にアクセス可能であり、誰もが享受できるフォームに実装化・具現化する知恵が求められます。これまでに疾患特異的分子異常に対しては、既に多くの標的治療薬が開発されました。一方、真に治療困難なのは、クローン性進化によって高度に複雑で不均一な細胞遺伝学的異常・分子生物学的異常を伴う病態です。私たちは、その克服を目指した探索開発研究を多角的に進め、分子診断法、治療法の開発と臨床実装化に挑んでいます。

## ② 想定される連携先・移転先

新規の分子診断法やオミックス解析法、遺伝子・染色体診断法、分子標的治療開発を目指す企業・アカデミアと幅広く連携し、数年以内の臨床研究への応用、診療への実装を目指します。

## キーワード

悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、白血病、遺伝子不安定性、染色体分配異常、分子・染色体診断

## 研究内容

腫瘍免疫監視機構の再教育を容易に実現する治療戦略の開発

誰もが容易にアクセス可能な細胞免疫治療の創薬開発

「フローFISH法」による複数染色体異常の同時迅速診断

予後規定染色体異常の迅速・高感度診断法の開発

PDPK1/RSK2シグナル標的化治療開発

難治病態形成に普遍的に関わるPDPK1/RSK2シグナル異常を標的とする創薬

難治症例の迅速診断法の確立



リスク層別化最適治療の実現

遺伝子不安定性の定量化による

B細胞腫瘍の悪性度診断  
AID活性、DNAミスマッチ修復機能欠損迅速診断法開発

癌抑制遺伝子欠失の迅速・簡便診断法の開発

「増幅FISH法」など新規の染色体微小欠失の迅速診断を開発

がんのクローン性進化を指標とした悪性度判定

染色体不安定性の迅速診断法開発による難治症例の迅速診断法